

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(3ユニット／1階ユニット)

事業所番号	2791000157		
法人名	株式会社のだか		
事業所名	グループホームのだか西淀川		
所在地	大阪市西淀川区大和田5-21-7		
自己評価作成日	令和4年11月30日	評価結果市町村受理日	令和5年1月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	令和4年12月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域に根差したグループホームとして継続した運営を取り組んでいきたいと思っております。コロナ禍ということもあり徹底した感染対策を実施し、リスクを意識しながら施設運営を行ってまいりました。入居者様への季節に応じた季節行事は施設内で楽しんでいただけるように各ユニットごとに企画してまいりました。毎月、家族様へお送りさせていただいている新聞という形でその中身をお伝えできたのではないかと思っております。現在は感染対策の為、入居者様と家族様の直接の面会はお断りさせていただきますが、玄関でのガラス越しでの面会、タブレット面会を実施させていただきます。これからも変わりなく1日1日を大切に、職員が入居者様に寄り添える時間を持ち、職員全員で頑張っていきたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

令和2年5月に開設、建設に関しての近隣との経緯や人材配置の難しさを抱えながらの2年8ヶ月だが、3ユニット満床で待機者のある現状にあり、利用者の尊厳を護りその人らしい暮らしの継続を支援し、家族の信頼と安心、地域の期待に応えたいと努力している。職員は年齢差や介護の経験値の差を相互に補佐しながら、自己評価シートの活用とランクアップテストでのランク者登用による資質向上に向けて努力している。今期1名の看取りケアと葬儀に関わった経験は、チームケアの大きな功績として今後に活かしたいとしている。コロナ禍での厳しい規制があるなかで、個別ケアに注力すると共に、季節行事の工夫や多様なレクリエーションの取り入れなどは、利用者の笑顔と家族の感謝の言葉に表れている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果【3ユニット総合外部評価結果】

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「家族・地域との交流を図り共に支えあい、その方の人生の物語を尊重します。また、安心して笑顔で過ごせるよう生活を共にするケアパートナーとして寄り添う介護を提供します。」という理念をむねに日々の業務に実践できるよう努めております。母体独自の理念と同じく事業所独自の理念を掲げ、日々の業務に実践できるよう努めています。	法人理念を基に「入居者への尊敬の念を持ち、自分らしく、穏やかでゆったりとした生活への援助」を旨とした独自の理念を、21年度外部評価以降に全員で創り出している。開設して2年8ヶ月、介護経験値の多様性がある中で、各人が日々の実践を確認し振り返り、フォー会議でお互いに確認し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナ発生により実施できず。	コロナ禍の20年5月、近隣との経緯がある中で開設で、自治会に加入しているが具体的な交流の場を持ち得ていない。自治会長、地主の協力を求めながら、周辺散歩の機会を活かして地域とのつきあいを始めていきたいとしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日々の実践を通し認知症介護高齢者の方への理解や支援、応対方法等について少しでも地域の皆様に活かして頂ける様に働きかけている。また包括支援センターや運営推進会議等でもご相談があれば窓口となり随時、施設見学などの対応もさせて頂いております。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括支援センターからご利用者の紹介を頂いたり、日常での支援でアドバイスを頂いたりしております。 (現在は感染対策の為、定期的な会議は実施しておらず書面・電話でのみになっております。)	開設以来全てを書面会議としており、利用者状況、職員状況、事故・ヒヤリハット、行事についての報告書を外部からの構成メンバー(民生委員・地域包括職員)に送付し、意見を聞いている。地域から1名のみでの参加と家族参加なし、全家族への報告書の送付無しを今後の課題とする。	地域密着型の意義から、家族からの意見や要望を運営に反映させるためにも、構成メンバーの拡充への努力を期待し、家族への報告書(会議録)送付と、会議案件に外部評価についての報告を付加することを望む。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日常の中でわからない事や確認が必要な事項につきましては、地域包括支援センターや区役所と連絡を取らせて頂き対応しております。	コロナ禍での開設に当たり、担当部署との連絡・相談は頻繁に行われ、協力関係は良好に保持されている。公的扶助者在籍により、生活支援担当職員との連携は密に行われ、地域包括センターとは入居者受け入れ要請など情報交換を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的を実施している社内研修を通し日頃から全職員が正しく理解、実施できるように取り組んでおります。	身体拘束・虐待防止指針(主旨・委員会組織・平常時の対応・発生後の対応)を有し、毎月一回各フロアごとに身体拘束委員会を開催している。家族の強い要望による2名の4点柵実施があるが、経過観察の下に解除に向けて努力している。スピーチロックなど不適切な言動については、管理者・主任から、また職員同士お互いに注意している。	減算対象(身体拘束)と業務義務(虐待)を仕分けした指針策定と、各フロアでの課題を事業所として取りまとめ、全員で理解して身体拘束をしないケアに繋がる体制(指針の構成員による適正化委員会)について検討と実施を期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	上記同様に全職員が理解し、定期的に研修を行っている。また発見した場合はすぐに報告するよう周知徹底しております		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的を実施している社内研修会で学習する機会を設け、全職員の理解を深め、今後も必要に応じて活用の検討をしております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	都度説明を丁寧に実施しております。十分なお理解が頂けるようにゆっくりと時間をかけて確認をしながら2名の管理者で対応しております		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を玄関に設置しアンケート用紙も常設する事により意見を聞きやすくさせて頂いております。感染対策で面会が制限されている為、電話で家族様からご意見を伺っております。	ガラス戸越しの面会時、物品の持ち込み時、電話やメールでの連絡時、オンラインでの面会(遠方家族)時などを活かして家族の意見・要望を聴収している。居室での面会や外出の要望には、時勢や法人方針を説明して納得を得るよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的を実施しておりますスタッフ会議及び各フロア会議において意見や提案を聞いております。	月1回のフロア会議(随時あり)やスタッフ会議での意見・要望は、現場即決で実践する他、法人本部へ上申での解決としている。近時では、外出禁止が続くなかで外出への要望が強くあり、本部に交渉して近所での観桜を実施し、時間等を選んでの周辺散歩を始めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員全員が何かしらの役割を担ってもらっている。法人全体でランクアップ制度を設けたり、処遇改善等を利用している。また、福利厚生の方でも働きやすい職場環境を提供しております(夏・冬の休暇。中退共)		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修にてランクアップ制度や研修を行い、より上のレベルに挑戦が出来る仕組みをつくっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ発生により実施できず。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のアセスメントをより深く実施することにより本当に本人が望んでいる事に対応できるように取り組んでおります。本人の事を理解して信頼関係を築くことが出来る様努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	情報収集を行い家族様とも話をさせて頂く機会を可能な限り多く設け、家族様の意向や要望を聞き取り、信頼ある関係を維持できるよう努めております		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期面談時に他のサービス利用の事も話をさせて頂き、その中でグループホームの利用が最適との結論に至った場合にご利用して頂いております		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の味見や洗い物、片付けなどを共に行ったり、清掃を職員と共に行っている。職員が忙しくしているとキッチンの片付けやゴミ集めを積極的にしてくれており、共に過ごし支え合う関係はできています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様の思いを中心に対応させて頂きながらも家族様の意向にも沿えるように対応させて頂いております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前から馴染まれた物品等は可能な範囲で持参して頂いております。可能な限りこちらからもアプローチを掛けて双方がお話できる時間を設け、関係を途切れないよう支援しております。	大部分の利用者が西淀川地区から入居しており、知人・友人からの面会要請や電話があり手紙が届いている。本人と一緒に電話をするなどして馴染み関係が途切れないように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活であるメリットを活かし、職員が間に入る事によって入居者様同士の良好な関係作りにも対応させて頂いております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	救急搬送後、体調が戻らず長期入院により退去を余儀なくされた場合でもお見舞いに行かせて頂いたり、回復された場合に家族様が望まれる場合は戻って来て頂けるよう対応させて頂いております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメント及び介護計画によりそれぞれに応じた、本人を主とした個別な対応を心掛けております。	開設して2年8ヶ月での出会いのなかで職員が把握した情報と、家族から得た往年の暮らしの情報の差異と、接遇時での様々な細かな気づきを繋ぎ共有して、出来ることを優先しながらその人らしい生活を支援したいと努力している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	過去の情報を家族様、親戚の方等より少しでも多くの情報を入手して、本人の介護に活かす事が出来る様に取り組んでおります。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	上記同様に取り組んでおります。また日々様子[(表情や食欲や体調管理等)をしっかりと察知することが出来るよう努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を中心にして、定期的を実施しているケアプラン会議にてモニタリング等を通じて入居者及び家族様の意向や思いを重視して各職員が日々ケアで関わる中でその意見を反映した形で介護計画を作成させて頂いております。	介護記録、モニタリング、フロアー会議録などを基に、医師・看護師の所見を参考にした担当者会議を3ヶ月毎に、また必要に応じて開催し、計画の見直しを図っている。家族には電話で意見を聴き、計画を説明して同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活記録への記録やケアプラン会議にて情報の共有を行い、介護計画の見直し等に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の意向を大切にしながら、サービスの向上に人員配置の許す限りで取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ発生により実施できず。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	外部の医療機関を協力機関として月2回の往診を受けている。協力医療機関以外を受診している利用者に対しても適切な医療が受けれるように努めている。家族様には丁寧に本人様の状況を説明し、今後の治療方針を主治医と共に相談にのっています。	入居前にかかりつけ医を協力医療機関に変更し月2回の訪問診療を受けることを了解のうえ、入居契約を結んでいる。2か所のクリニックに利用者を分けて、個人別の「医療申し送り表」全体の「健康管理表」を使って連携をとっている。主治医の指示で別の専門科に通院するときは家族同行を基本にしているが、家族都合により、事業所が同行することもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤看護職員を配置しているので、24時間連絡体制を取っている。随時連携を取り、利用者が適切な受診や看護を受けれるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院となった場合、病院とご家族に連絡をし、病状の把握と早期に退院できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約の際に「重度化した場合の対応に係る指針」と「急変時の対応について事前意思確認書」を提示の上、説明し事業所でできることは伝えている。	開設3年で昨年初めての看取り介護を経験した。職員は年間計画での研修を受け、実際時には事前説明で状況を共有し、現場では先輩介護士や看護師からの指導、教育を実習した。見取り後は独居者だったために、事業所が主体となって葬儀を行い、職員は花や、好きだった品とともに、皆で見送ることができた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	チェックシートを活用し、取り組んでいる。また、定期的に研修の中で行うようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て年2回避難訓練を行っている。利用者にも参加をしてもらっている。	今年度は自主訓練、消防立ち合いの訓練を行った。消防署のアドバイスで火災の避難場所は階段を下りて駐車場となっている。車いす利用者の避難は課題として全員で検討中である。淀川近くなので水害、浸水を重視し、備蓄管理を充実させ、ポータブル電源を用意した。地域協力は今後の課題ととらえている。	地域協力のためにまずは、地域の防災訓練に職員が参加することから始めることを望む。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特に配慮させて頂いており、皆様が快適に生活できるように支援させて頂いております。また定期的実施しているスタッフ会議の場でも周知徹底させて頂いております。	トイレでは扉の開け閉め、臭い、言葉かけ、食事ではエプロンをつけることや全体がとらえにくい目の障害がある人に食器の差し替えを他の人に気づかれないようにさりげなく行うなど、また、記録をつけるときには、利用者の目につかないようにカウンター内で書くなどに気を付けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が理解できる表現での問いかけや雰囲気作りを行い、ご自身の意向や思いを確認して聞き出せるよう働きかけております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な範囲でその方のペースで生活して頂けるよう、取り組みをさせて頂いております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容で本人やご家族に好みや今までの習慣などを聞きながら、少しでもその方らしい身だしなみやお洒落ができるよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材と献立は外部の業者より納品され、各階の職員が利用者の状態に合わせて調理している。またそれ以外にも、季節に合った食事を提供し季節感を感じて頂けるようにしています。	以前は職員が調理していたがコロナ禍のため、炊飯汁物以外は本部の決定でパウチ(湯煎)になった。朝食は従来通り職員が用意している。正月、クリスマス、敬老会などの行事の時にはいつもの食事は止めて特別献立にしている。誕生日にはケーキをみんなで作ったり、お好み焼き作る楽しみもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考慮した食材を注文し、水分取量や食事摂取量の記録を生活記録に記載し把握している。決められて時間以外にも対応するように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアと利用者、ご家族の希望により週1回の歯科往診による口腔ケアを提供している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	生活記録」で排泄パターンを把握し、自尊心を傷つけないよう、一人一人に合わせた声掛け、見守りを行っています。	トイレでの排泄を大切にしており27人中22人がトイレを使っている。その半数が完全に自立なので、その状態が長く続くように支援している。夜間もその人に合った間隔や排泄用品使用でトイレ誘導を基本にしている。トイレ以外で排泄する困難事例があり、全員で原因や対策を考えて試行錯誤中である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為、定時に体操を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	拒否のある方には入浴前の声かけに工夫をしたり入浴剤の使用で楽しんで頂けるように取り組んでいます。	入浴は週2回以上になるようにしている。浴室は広い目で、浴槽にはベンチが設置してあり、またぎが難しい人にも入りやすい。自立の人も多いが、おしゃべりしながら見守りしている。重度の利用者は二人介助で浴槽に浸っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間や起床時間にこだわらず、利用者の生活習慣に合わせるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報をファイリングし、いつでも確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事などの手伝いや季節のレクリエーション、誕生日会など利用者を楽しんでもらえる時間の提供に努めている。 紙芝居の導入を行っている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ発生により実施できず。	以前は法人の決定で建物外に出る機会がなかった。前回外部評価で課題となり、職員の希望も多数あったので、法人と話し合いを重ねて、コロナ対応に留意しながら春にはお花見に出かけ、現在は周辺の散歩をするようになった。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理での問題を防止するために基本的に買い物等に出かけた場合、事後の清算で対応させて頂いております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望された時や手紙を書かれた時等は出来る限りの支援をさせて頂いております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温の管理、音楽等、その時々々の状況を見ながら対応させて頂いたり、入居者と話をしながら、心地よい環境・空間作りに取り組んでおります。また季節を感じて頂けるよう各フロアにて飾り付けをしております。	玄関にはサンタクロースが置かれ、フロアにも季節を感じる飾り付けがされている。テレビとソファがあり、時々には食事椅子から移っておしゃべりが弾むように職員が工夫し先導している。新しい建物なので、何処もきれいで気持ちよく保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	机、座席のレイアウト変更等によりその時の状況に応じて対応させて頂いたり、入居者と話をしながら、心地良い環境・空間作りに取り組んでおります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使い慣れた家具やテレビ、家族の写真、仏壇などを持ち込んでもらうなど居心地よく過ごせる工夫をしている。	居室にはベット、クローゼット、照明器具、カーテンなどが設備され、他の物の持ち込みが勧められて、家族の写真や手芸作品が持ち込まれている。中には仏壇や夫の描いた油絵を壁にかけている部屋もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺の設置をはじめ、安全を第一に考えながら、住環境の設備には注力させて頂いております。トイレや浴室がわかりやすいように標示をしている。		